

《本心》

地球の未来を輝かす為に
人々が是非共識しなければならぬ事がある
それは御身たちの真実が
御身たちの本心が
肉体生活にまっはる欲望と恐怖と
そして悲哀と憎悪と云ふ
黒い翼に蔽(おお)はれてゐると云ふ事である

それよりも亦(また)一層深く識らねばならない事は
御身たちの本心は
御身たちの真実は
宇宙を動かしてゐる大いなる智慧
無比絶対なるエネルギーの源泉に
其の基を置いてゐると云ふ事である

御身たちの本心は常に神と一つであり
御身たちの真実は神から発する光であり
そして御身たちは嘗(かつ)ては
本心そのものであつたと云ふ事である

欲望 恐怖 悲哀 憎悪
さうした業生(カルマ)の想念は
御身たちが神の光の世界から

肉体と云ふ形の世界に自己限定した時から起つたもの

現はれては消え去る大海の泡沫

夢幻が画く一夜の劇

人類が争つてゐるのではない

人間たちが迷つてゐるのではない

争つてゐる想ひが

迷つてゐる想ひが

今消え去らうとして

人類の前を 本心の前を

通り過ぎてゆくところなのだ

御身たちは只黙つて

御身たちの本心が神と座を一つにしてゐる事を想つてゐるが
よい

光り輝く神と本心とをみつめつづけるがよい

心を落ちつけ

想ひを静め

只々神の光明を観じてゐるがよい

さうしてゐる時が一番

様々な業生(カルマ)の想念おもひが消え去り易い時なのだ

御身たちよ

消え去る業生(カルマ)を止とどめる事はない

夢幻の苦痛を想ひかへす事はない

御身たちが止めさへしなければ

想ひかへしさへしなければ

業生(カルマ)は再び御身たちの下に戻つてくる事はない

御身たちは今本心そのものである

神の大光明と全く一つのものである

地球の未来を光一色で画き出す者である